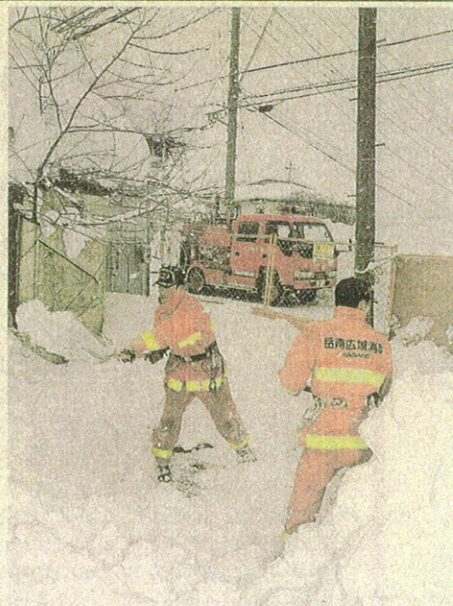


積もる雪 募る不安

北信濃対応に苦慮

大雪が続く北信濃。各市町村が対策本部を設けるなど、警戒を強めている。
最深積雪が観測史上最大の164センチを記録した信濃町。野尻湖小(信濃町野尻)は1日、低学年児童の集団下校を実施した。「除雪作業で道路脇に雪の壁ができており、



懸命作業 腰の高さまで積もった雪をスコップでかき分け、防火貯水槽を掘り出す中野消防署員ら＝2日午前、中野市赤岩



集団下校
大雪で交差点の見通しが悪いいため、安全に気を付けてる集団下校する野尻湖小の児童たち＝1日午後、信濃町野尻

平均超え
栄村のJR森宮野原駅近くにある日本最高積雪地点の標柱。今冬の同村森の観測点の最高積雪は338センチ＝1日午後



飯山市飯山の千曲川河川敷にある市の雪捨て場は、2日も朝から雪を運び込む車両が列をつくった。順番を待っていた市内の病院スタッフは「運ぶのは18年豪雪以来」。
雪捨て場でタイヤが雪に埋まり、別の車に引き出してもらった車両もあった。
栄村森のひと冬の最高積雪の平均は300センチ。今冬は1月31日に338センチとなった。JR森宮野原駅そばにある、1945(昭和20)年2月12日に記録したとされる積雪785センチを示す「日本最高積雪点」の標柱も中ほどまで雪に埋まっている。
中野市では2日、中野消防署の署員4人が市北部の赤岩地区など積雪が多い場所を巡回した。同署管内には消火栓が1159カ所、防火貯水槽が279カ所あり、雪で埋もれていないかを順次点検している。雪が腰の高さまで積もった場所もあるため、署員らがスコップで掘り出している。
同市は2日までに、2006年1月1日以来となる雪害対策本部を設置。雪捨て場を2カ所から9カ所に増やした。農作物の被害を防ぐため、消毒剤として、市が作っている汚泥堆肥を無料配布することも決めた。
市の測定によると、市北部の田上地区の1月の最高積雪は166センチ、昨年の86センチの約2倍になっている。



続く車列 千曲川河川敷の雪捨て場(右奥)に雪を運び込む順番を待つ車両＝2日午前、飯山市飯山